

令和5年11月27日(月) 15:00~15:30

シティプロモーション課 ふるさと応援係

於：宇美町役場2階大会議室右

## 令和5年度 第3回 宇美町地域公共交通会議議事概要

### 1 開会挨拶

- ・会長(原田副町長)が行う。

### 2 報告事項

- ・のるーと宇美の近況報告について

(事務局) 資料1 説明

(会長) 前回の会議は9月末であり、8月までの実績を報告させてもらった。特に8月は学校の夏休みと重なってお子さんや親子での利用が増えている話もあったが、9月10月も平日は100名を超える利用者数があり、土曜日でも80名を超えている。事業として定着が図られているのでは。ご意見ご質問等あれば。

(江口) グラフの縦軸横軸にある数字の色を濃くしてほしい。傾向はわかるが、細かい数字がわからない。

キャンセル率について、私ものるーとを利用するが、今は西鉄バスもバス停への到着時刻がわかるようになっているので、つい見比べることがある。西鉄バスの到着時刻が近づいていたら、のるーとはキャンセルすることもあり、そういった理由でキャンセルされることもあると思う。

(事務局) グラフの資料については次回から改善する。

キャンセル率については、西鉄バスのほうがご自身の予定に合うからという理由でキャンセルをいただくこともあると思うし、これまでも説明してきたように窓口で使い方の案内をする際に、一度予約を取ってその後キャンセルすることもあり、それらが数字として反映されているので、実際の数字としてはもっと少ないのではないかと見込んでいる。

(江口) 運行費がどれくらいかかっている、運賃としてもらっているのはどれくらいなのか。

(事務局) ざっとした数字になるが、システム費などを除いて、毎月運行費として300万弱程度かかっている。運賃収入としては、当初はクーポンなどを手厚くやっていたので少なかったが、最近は月に30万を超えるようになってきたので10%程度が収入として得られている状況。

(江口) 国からの補助も出ていると思うが、町からはどれくらい持ち出しているのか。

(事務局) 現在は国からの補助は受けていない。導入した時はデジタル田園都市の交付金を活用させてもらったが、今年からは県からの補助金をいただいている。トー

タルの数字にはなるが、運行全体で予算ベースとしては経費としては4,750万円程度かかる計算。県からの補助金が900万円程度頂けるのではないかと試算になっている。差し引きで4,000万弱、町の持ち出しがある予定。ハピネス号の時に必要としていた財源と変わらない額で推移している。ただそれでいいというわけではなく、採算性の面も今後考えながらやっていく必要がある。

(鶴川) 一日の平均乗車数が100人と出ているが、限度としてはどれくらいなのか。

(事務局) 限度というところが難しいが150人を目標にしている。ルートや予約によっては難しいところもあるので、さきほど140人の利用があった日があったと報告したが、それくらいの人数でいけたらと思っている。

(鶴川) P3に書いてある「シフト変更による更なる改善に期待」の「シフト変更」とはどういうことか。

(事務局) 乗務員のシフトで朝何時から運行させてというところを、朝に集中させたり、乗務員の休憩時間が出てくることで待ち時間が増えることがあるので、そこをどうカバーしていけばいいかこれから運行会社とシステム会社とで話しあって試していきながら改善を図ろうとしている。

(会長) 今の一との運行形態としては、町が4台保有しており、木村タクシーさんと合屋タクシーさんで2台ずつ運行していただいている。常時3台動かして1台は予備車としている。昼間の利用が少ない時間帯は2台しか動いていない時間帯もあるが、今の運行形態を続けていくと一日150人くらいまではなんとか受け入れが可能ではないか。これ以上利用が増えていくと、台数を増やすということになるが、そうすると運転手の確保やシフトの問題が出てくる。そのあたりは今後の状況を見ながら検討していくことになる。その他にご意見は。

(井料) 利用者数と同様に乗合率も重要ではないかと思う。乗合率の推移がわかれば教えてほしい。また、予約方法についても、いくつか予約方法があるがその割合について教えてほしい。

(事務局) 乗合率は約70%なので、10回乗ると7回は乗り合っている現状である。

(井料) 2人以上乗っているかということが知りたい。2人以上乗っていれば1.0人という数字が出てくる。乗り合わせていただくことで経費は落ち効率化される。一つの指標になるのでは。

(事務局) 補助金の関係で乗合率の人数で1.5人以上が補助の対象か。

(井料) 補助金もそうであるが、乗合タクシーとしては2人以上乗ってもらうのが理想ではないか。どこの自治体も難しいところであるが、そこもひとつ目指すところではないだろうか。

(事務局) データ上70%という数字が出ているが、これは10回誰かが乗るうちの7割の方が誰かと乗り合っているという数字であって、人数に表したものは今のところ把握できていない。こういった数字で推移してきているかというのは今後確認して、またの機会に報告させていただきたい。

- (事務局) 予約方法については、あまり変わりはなく 60 代以上の方はアプリ・LINE 予約が 50%、電話予約が 50%である。全体を通すと、7 割の方がアプリ・LINE を利用している。
- (会 長) 他にご意見ご質問は。
- (大 井) のる一と自体が便数という考え方が難しい。普通だと何便走っていて、それで人数が分かる。70%という数字はどうやって把握しているのか。予約の時間帯で何人乗っているかというところで便宜的にしか出せないと思うが、その理解で良いか。
- (井 料) おっしゃる通り。
- (大 井) 割り出すとしたらそれで代替するしかなさそう。時間帯を一便として何人乗っているか。
- (事務局) 県の補助金を今後も活用させてもらう意向。乗合率、乗合人数の出し方についても、県のほうで確認しておきますという回答であった。その回答についても今後この会議で報告させてもらう。
- (江 口) 普通のバスの利用率はA地点からB地点まで何人乗ったと言えるけれども、この場合は途中で乗り降りしたりして変わるから、乗車率をどうやって出すのが難しい。
- (事務局) 検討しますとしかまだ言えない。計算式が定まらない。
- (大 井) 途中で乗り降りがあるから、全部の人数を便でばさっと割るしか計算ができないと思う。
- (会 長) 報告については以上になる。